

【281】

氏 名（本籍）	やまぐちとよかず 山 口 豊 一（茨 城 県）		
学 位 の 種 類	博 士（カウンセリング科学）		
学 位 記 番 号	博 甲 第 5432 号		
学位授与年月日	平成 22 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科		
学 位 論 文 題 目	中学校のマネジメント委員会の機能がチーム援助体制およびチーム援助行動に与える影響		
主 査	筑波大学教授	Ph. D	石 隈 利 紀
副 査	筑波大学准教授	博士（心理学）	岡 田 昌 毅
副 査	筑波大学准教授	Rh. D	八重田 淳
副 査	筑波大学教授	文学博士	松 井 豊

## 論 文 の 内 容 の 要 旨

### （目的と論文の構成）

本論文は、①マネジメント委員会の意思決定プロセスと機能について明らかにする、②チーム援助体制について明らかにする、③チーム援助行動について明らかにする、④マネジメント委員会の機能が、チーム援助体制およびチーム援助行動に与える影響について明らかにすることが目的とされた。本論文は、第Ⅰ部序論、第Ⅱ部本研究の理論的背景、第Ⅲ部本研究の目的と基本概念の定義、第Ⅳ部中学校における生徒の援助者および援助組織に関する研究、第Ⅴ部中学校におけるマネジメントに関する研究、第Ⅵ部中学校におけるマネジメント委員会の機能がチーム援助体制およびチーム援助行動に与える影響、第Ⅶ部総合的考察で構成されている。

### （第Ⅰ部）序論

現代の中学生が抱える問題状況は深刻である。暴力行為、不登校は増加傾向にある。特に中学生に有効な援助サービスを提供することが求められている。現在の中学校は、これらの生徒のニーズに十分対応できていないと考える。そこで、学校としては、生徒を援助しやすいシステムを模索し、構築する必要がある。そのためには、多様な人材や組織を機能的に活用し、チームによる援助を促進する必要がある。学校を構造的に組織化し、運営する援助サービスのマネジメントの視点が重要である。

### （第Ⅱ部）本研究の理論的背景

学校組織の中核を担い、学校のマネジメントを行うのは運営・企画委員会（マネジメント委員会）である。チーム援助や相談体制に関する研究は積み重ねられつつあるが、マネジメント委員会に関する包括的、実証的な研究は見受けられないことが明らかになった。

### （第Ⅲ部）本研究の目的と基本概念の定義

### （第Ⅳ部）中学校における生徒の援助者および援助組織に関する研究

A 中学校における不登校生徒への学年中心のチーム援助の援助実践を検討し、学校組織を生かし、学校内外の援助者を活用したチーム援助が効果的であること、学校組織のあり方や援助サービスのマネジメントが重要であることが明らかになった。チーム援助を促進する学校組織的な要因は、「運営委員会」「チーム援助

体制」「チーム援助行動」の3つのレベルで検討する可能性が示唆された。

#### (第Ⅴ部) 中学校におけるマネジメントに関する研究

B 中学校において、筆者がスクールカウンセラーとしてマネジメント委員会に参加し、その議事録を修正版グラントッドセオリーアプローチで分析した。その結果、マネジメント委員会の意思決定プロセスとして、【Ⅰ問題・情報の共有化】【Ⅱ学校の課題に関する協議】【Ⅲ指示・伝達】【Ⅳ決定】【Ⅴ終了】、マネジメント委員会の機能として、【Ⅰ問題解決・課題遂行】【Ⅱ校長の意思の共有】【Ⅲ職員の教育活動の管理】【Ⅳ組織の設定・活用・改善】のカテゴリーが抽出された。

#### (第Ⅵ部) 中学校におけるマネジメント委員会の機能がチーム援助体制およびチーム援助行動に与える影響

全国の中学校 93 校、1485 名の教師を対象とした質問紙調査によって、「マネジメント委員会の機能」「チーム援助体制」「チーム援助行動」の関連について検討した。その結果、マネジメント委員会の機能（「情報共有・問題解決」「教育活動の評価と見直し」「校長の意思の共有」）の得点が高い学校は、チーム援助体制（「学年会・委員会の活用体制」「保健室・相談室の活用体制」「学年会・委員会の会議の運営」「スクールカウンセラー等の活用体制」）が整い、チーム援助行動（「チーム援助への積極的関与」「チーム援助での役割責任」）が促進されることが示唆された。また、主任層においては「情報共有・問題解決」機能がチーム援助体制、チーム援助行動に強く影響していることが明らかになった。

#### (第Ⅶ部) 総合的考察

現代の中学校における援助サービスのマネジメントにおいては、マネジメント委員会の機能「情報共有・問題解決」が特に大きな影響力があることを論じた。また、変化の激しい時代における中学校においては、「校長の意思の共有」機能も重要であり、校長の意思を学校組織的に共有することが求められることを述べた。

### 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、チーム援助の実践およびマネジメント委員会の実践について質的に分析するとともに、大規模の調査研究によって、マネジメント委員会の機能について明らかにした。これまでの学校心理学およびカウンセリングの研究領域において、援助サービスのマネジメントに関する研究はきわめて少なく、この点に本研究の独自性が認められる。とくに質問紙調査は類を見ない大規模な調査（中学校 93 校、1485 名）であり、またマネジメント委員会の機能がチーム援助体制やチーム援助行動に影響を与えるという新しい知見を発見している点が評価された。さらに、マネジメント委員会における「情報共有・問題解決」機能の重要性の指摘など実践的な貢献も評価された。ただし、チーム援助行動がどう子どもの問題に関係するかなどの今後の課題があることが指摘された。

よって、著者は博士（カウンセリング科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。